

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年2月12日

事業所名 西宮市立北山学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用定員は30名。指導訓練室、集会室ともに基準を満たしている。園児が必要な時に落ち着ける(クールダウン)場所があると良いが、空間的に難しい。廊下など状況に応じて対応している。
	2	職員の配置数は適切である	○		他グループの職員数もなるべく見て、配膳など職員が手薄になる時間は特に助け合うようにしている	職員の配置基準は満たしている。日や時間帯によっては手薄になる場合もあるため、グループ間で協力してカバーする。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			エレベーターはないため、バリアフリーに課題がある。介助が必要な園児は抱えるなどで対応する。収納スペースの不足があるため、倉庫と保育室の活用を検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		朝夕に分けて保育室や訓練室、廊下、ホールの清掃を行っている。玩具や保育室、手すり等の消毒も行っている。	継続して清掃や消毒を行う。玄関の床がコンクリートで、園児が転倒の際に頭を打つと危ないので、敷物の使用を行う。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		1週間に一度、各クラスで会議を実施し情報や課題の共有を図っている。個別支援計画の見直しにはモニタリングを行う、月の支援も回覧している。	継続して取り組む。また会議や朝礼に不参加だった場合の情報収集について、より適切な閲覧方法や周知方法を検討する。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者当向け評価表を年に一度実施しているほか、別途利用者満足度アンケートの実施や要望により改善に活かしている。	利用者満足度アンケートを継続する。また保護者会の要望に対する検討と、回答及び業務改善の取り組みを行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所評価を行いホームページで公表する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価の実施を行う。また今年度は新型コロナウイルスのため未実施となったが、例年は西宮市児童通所支援連絡会で相互の評価を行っている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		新型コロナウイルスの影響で実施は少なくなったものの、外部研修に参加している。また外部研修報告会や園内学習会を行っている。その他、外部研修の案内掲示を行っている。	各職員に必要な外部研修の参加を今後も行うと共に、外部研修報告会も引き続き行う。オンライン研修も積極的に活用する。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		面接、懇談、アンケートで実施している。	年3回の保護者からのアセスメントと懇談を継続する。連絡ノートの活用も継続し、保護者や子どものニーズを把握する。多職種で情報共有し、支援につなげる。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			心理士の発達検査では新版K式の活用を継続する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			児童発達支援計画で具体的な支援方法を挙げ、それに沿った支援を実施している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			児童発達支援計画に沿った支援を実施している。内容は担任からの発信や閲覧で共有する。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担任及びグループ配置のパート職員でグループ会議等での保育の検討を行い、プログラムの立案に活かしている。	グループ会議での検討や職員間での意見交換を今後もプログラム立案に活かしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		他グループの保育を参考にしたり、ビデオを活用した保育検討を行っている。	ビデオを活用した保育検討やグループ会議の内容、職員間での意見交換をプログラム立案に活かしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			個別活動、集団活動それぞれの状況を踏まえ、児童発達支援計画に活かしている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		口頭、ノート等で確認している。また前日に担任間で、および当日にパート職員で保育内容等確認している 留意すべき支援点や役割分担をノートに書き共有している。	送迎添乗で打ち合わせができていない時は日誌や連絡ノートを積極的に活用し情報収集に努める。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		週一回のグループ会議振り返りや情報共有できている。気付いたこと、迷っていることなど積極的に話すようにしている。	週一回のグループ会議を継続し、細やかな課題や情報の共有を図る。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を行っている。また他の人が書いた記録も読み、共有、気付きに活かしている。	保育に関わった職員で記録を実施を継続する。またビデオでの保育検討を継続し、検証・改善に活かす。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		年3回の保護者懇談の内容も踏まえ、半年に一度程度の児童発達支援計画の見直しを行っている。	今後も保護者懇談で保護者の意見を聞き、また実施状況の確認をすることで児童発達支援計画の見直しに活かす。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担任を中心に参加し、また児童発達支援管理責任者や役職が必要に応じ参加している。	今後も担任を中心に参加する。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			必要に応じて関係機関と連携し、情報共有を継続する。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		入園前には関係機関と連絡を取り、準備に活かしている。	保護者や関係機関との確認事項はファイル等で職員間での共有を図り、適切な対応ができるようにする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		入園前には保護者からの聞き取りや、対応の確認を行っている。	保護者や関係機関との確認事項はファイル等で職員間での共有を図り、適切な対応ができるようにする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて様子を伝えたり引き継ぎを行っている。	必要に応じ情報共有し連携を図る。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		進学前に引き継ぎを行っている。	必要に応じ情報共有し連絡を図る。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センター間での情報共有や研修、また西宮市内の事業所間での情報共有を行っている。	児童発達支援センターや西宮市内の事業所間での連携を継続していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	新型コロナウイルスの影響で予定していた保育園との交流が実施できなかった。	新型コロナウイルスの感染対策を図りながら、次年度の実施を予定する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○			西宮市自立支援協議会こども部会の参加を継続する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノートを活用し、家庭での悩みや出来事など自由記載で担任とやりとりし、寄り添う支援を行っている。また毎月の支援のまとめをお配りしている。	今後も連絡ノートの活用を継続する。毎月の支援内容のまとめの活用も継続する。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者学習会、発達相談、療育相談を行っている。	保護者学習会、発達相談、療育相談を継続する。保護者学習会ではニーズに合わせた内容を検討する。感染対策としてオンラインでの実施も検討する。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に利用者負担について説明を行っている。	契約時の説明の継続、及び、いつでも確認できるよう掲示をする。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		年度当初に説明し同意を得ている。変更があった際にも同意を得ている。	今後も年度当初や必要時の同意を継続する。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的に個別懇談、発達相談を実施している。また保護者からだけでなくこちらからも声をかけている。連絡ノートの活用や保護者来園時にもやり取りしている。	定期的な個別懇談、発達相談を継続し、必要な助言や支援を行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度は新型コロナウイルスの影響で保護者会の開催が例年通りできなかった。電話等で必要な連絡を図った。	次年度は例年の保護者会の活動の支援を目標に、感染対策を取りながら実施可能な内容を検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		必要に応じて児童発達支援管理責任者や心理士など、適宜対応を図っている。	相談や質問には迅速に対応し、また適切な担当者に引き継ぐなど連携して取り組む。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		園だよりを毎月発行し、行事予定や学園の様子などを発信している。	園だよりの発行を継続し、情報を発信する。またそれ以外でもメールや配布物で速やかな情報伝達に努める。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		写真使用については保護者に同意を取るとともに、必要に応じた使用に配慮している。	写真使用の同意を継続する。また行事時の写真撮影は保護者にも注意喚起を継続的に行う。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		園児の特性に応じたにわかりやすい伝え方を考えるようにしている。	園児の特性に応じた意思疎通の方法について職員で検討を行う。保護者への連絡は電話、メール、配布など内容に応じた適切な方法で伝える。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今年度は新型コロナウイルスの影響で行事が例年通りできなかった。	新型コロナウイルスの感染対策を図りながら、次年度の実施を予定する。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルの策定を行っている。火災対応訓練を月1回、不審者対応訓練は年6回、地震対応訓練を年1回実施している。感染対策の学習会は年2回実施している。	マニュアルの適宜の見直しを図る。定期的な訓練を計画的に実施する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災対応訓練を月1回、不審者対応訓練は年6回、地震対応訓練を年1回実施している。	地震対応訓練の回数を次年度は増やし、引き続き計画的に各訓練を実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入園前のアセスメントで確認している。	個別の状況を確認し情報を共有する。入園前に確認し、必要に応じて受診を依頼する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーガイドラインを基に対応している。栄養士とも連携している。	今後も医師の指示書に基づいて支援する。また日常や緊急時の対応を情報共有し、必要に応じた学習会を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故報告書にて当日中にまとめ、遅くとも翌日の支援までに周知を行っている。	事故報告書の閲覧を活発に行う。またヒヤリハットに関する研修会の実施を検討する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を開催し報告書の閲覧を行っている。また接遇チェックで毎月振り返りを行っている。年2回、接遇や虐待防止に関する検討会を行っている。外部研修参加および園内研修を実施している。	今後も虐待防止委員会の実施と接遇チェック、虐待防止に関する検討会を継続する。また外部研修参加と園内研修を継続し、虐待防止に努める。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約時に説明している。児童発達支援計画に記載し、身体拘束実施があった場合は記録を残している。虐待防止委員会にて身体拘束について検討を行っている。	身体拘束を行わない支援や方法を職員間で検討する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。